

## 令和6年度第1回 四国森林管理局事業評価技術検討会 議事概要

1 開催日 令和6年7月 25 日(木) 14:00～15:20

2 場 所 四国森林管理局 6階 研修室

3 出席者

(1)事業評価技術検討会 委員

高知工業高等専門学校 准教授 池田 雄一

信州大学農学部 准教授 守口 海

森林総合研究所四国支所 産学官民連携推進調整監 毛綱 昌弘

(2)森林管理局

森林整備部長、計画保全部長、企画調整課長、計画課長、治山課長、  
森林整備課長、資源活用課長

(説明者)

治山課 治山技術専門官、民有林治山係長

森林整備課 課長補佐、森林育成係長、路網計画係長

(事務局)

企画調整課 監査官

4 議事概要

○期中の評価:直轄地すべり防止事業(南小川計画区)

委員: 資料1 P31 の評価結果(案)に、「家屋や道路施設等に被害を及ぼしている地すべり」とあるが、具体的に被害が発生しているのか。

局: 家屋の傾きや道路の亀裂などが発生している。

委員: 資料2は土砂のコストである山地保全便益で評価しているが、資料1 P31 の評価結果(案)は災害防止便益のことも記載されている。災害防止便益はいくらか。

局: 災害防止便益は山地災害防止便益、人命保護便益から構成されており、b/c は 0.82 となる。

委員: 1を下回っているが、必要性のところで災害防止便益のことが書かれている。

局: どちらも便益は土砂が流出したり、崩壊したりすることに対して算出をしているが、実際には家屋等に被害が出ており、それを防止する便益でもあるので、それらを総合的に評価してこのような書きぶりにしている。山地保全便益と災害防止便益が重複している部分もあるので、便益が高い方を採用している。

委員: 資料2で分析結果が、前回の分析結果と大きく異なる原因は何か。

局: 現在の価値に換算しており、土砂撤去費など、コストが当時より大幅に上昇しているため。

委員: 土砂撤去費の上昇で評価値がこれほど変わるのか。

局：計画事業量や社会情勢等に大きな変化は無いものの、主要なコスト因子が上昇した当該地区のような場合は、費用よりも便益が上昇し易くなると考えている。なお、評価実施年度のコスト因子が下がれば便益も下降し易くなると考えられる。

委員：実施済み施設の便益については、それぞれの工事完成時点のコスト因子により算出すべきではないのか。

局：便益の算出は、評価の実施年度の各因子を使用し、現在の貨幣価値に換算することとなっている。

委員：R4年度から6年度で土砂撤去コストがそんなに変動するものか。資料1のP23の山地保全便益と災害防止便益のうち「高い重要度を選択」するのは機械的に選ぶのか。恣意的に選ぶのか。

局：R4年度と比較し、土砂量を算出するための保全効果区域等の面積に変化はないが、1m<sup>3</sup>の土砂を撤去する費用が上昇しており、区域全体の土砂撤去コストも上昇変動した。P23については、評価値が高い方を機械的に選択している。

局：それでは、この評価結果案につきましては、「新たに必要となった対策工を実施することで、地すべりの安定化が図られること、事業の必要性、効率性、有効性が認められること、地元の強い要望があること等から、事業の継続は妥当なものとなっている。」ということでしょうか。

各委員：異議なし。

#### ○完了後の評価：森林環境保全整備事業（高知森林計画区）

委員：5年間で開設が400mに対して改良や補修の延長は67kmと長い。開設がこんなに短いのに驚いたが、評価結果(案)の効率性では、「開設・改良などにより」と書かれているが。

局：本来なら新しく開設したいところだが、予算の関係もあり、また、木材利用の観点から生産量が増える中で、どちらかという新しく開設するよりも現状の林道を維持管理しながら改良を加えて森林整備を進めていく、という方向になっている。

委員：改良の距離は、写真のような構造物を入れた距離ではなく、林道の一部を補修した実際の距離が67kmもあるのか。

局：構造物を入れる改良工事だけではなく、重機で路面を整地するものも含まれている。

委員：負の便益はあるのか。

局：ない。

委員：新設は予算を確保してから路線の計画を行うのか。

局：路線の計画が先にあって、予算がついた中で優先度の高いものから着手する。

委員：優先度はどうやって決めるのか。

局：木材生産や施業を実施する箇所を優先的に決定している。

委員：造林の写真でシカの食害防止ネットは成長には影響しないのか。

局：機能がなくなれば、人の手で撤去する。成長への影響は、今現在効果発揮中なので、今後明らかになっていく。

局：それでは、この評価結果案につきましては、「森林整備の効率的な実施に必要な路網整備や植付、下刈、間伐などの造林に取り組んでおり、水源涵養や国土保全等、森林の有する様々な多面的機能が発揮され、今後もその効果が見込まれることから、必要性、効率性、有効性など評価の観点から、妥当なものとなっている。」ということよろしいか。

各委員：異議なし